

1

「子どもの 権利条約」 推進部門

子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」 「参加する権利」がより保障される社会をつくる ために

引き続き、不登校の子ども居場所づくりを受託・実施。学習サポート事業「小河学習館」の運営、非行の子ども自立に向けた「親たちの会」の運営、各種講演会、シンポジウムの開催などに取り組みました。

1-1 学習支援事業（小河学習館の運営）

2005年度～
自主事業

学習支援事業では、小河学習館における実践により、子ども自身が、学習を通して‘わかる’喜びを感じ、一人ひとりが自信を持てるよう取り組んでいます。子ども自身による数学・国語・英語の学習管理とスタッフによる学習カウンセリング、および保護者への教育カウンセリングを通して、一人ひとりの子どもの学力に応じた学習計画を立て、学習習慣を培う指導をていねいに取り組んでいます。

2010年度は毎週土曜日の授業に加えて、個別の学習状況に応じた講習を夏（8月）と冬（1月）に実施しました。さらに小河勝氏が、奈良で「小河教育研究所」を設立し、小河学習館の指導内容を実践する「奈良ゼミナール」を開校しています。そのため、2011年度からは、「小河教育研究所」に小河学習館の事業運営を引き継ぐこととなりました。奈良でも実践の場が広がることで、学習習慣を身につけつつ、生徒のニーズに合致した指導を、さらに大きく展開できると思います。

- ・ 日時：毎週土曜日 15:00～18:00
- ・ 会場：エール学園1号館（大阪市浪速区）
- ・ 講師：小河勝氏 他3名
- ・ 在籍者数：4名
- ・ 連携団体：学校法人エール学園



【次年度の計画】

小河教育研究所へ小河学習館事業を引き継ぎつつ、事業運営のサポートを必要に応じて行います。

少年非行の問題は本人だけでなく、学校や家庭の問題、心の問題、医療、司法手続きや処遇、事件になった後の更生保護や生活上の支援に関する事など、極めて多岐にわたっています。総合的に少年非行の問題に取り組むためには、家庭や学校だけでなく、警察、司法、行政、医療などに関係する機関の相互の連携が必要です。また、BBS 活動や保護司、NPO などの民間の取り組みは、犯罪や再犯の予防、自立支援に必要な社会資源として期待されています。

今年度は、子どもや親や学校が、支援者の協力をいち早く得られる環境を作ることを目的に、次の3事業を行いました。

- ①非行の子どもと保護者にとって必要な情報を掲載したリストを作成し、学校をはじめとした各支援機関に配布することで、官民の連携をより一層深め、社会全体で子ども・若者を総合的に支援する社会環境づくりの推進に取り組みました。
- ②上記を作成するためのリスト作成会議を設置しました。
- ③犯罪やネットトラブルの被害者にならないために、子どもを取り巻くネット社会の現状を考えるシンポジウムを開催しました。

<大阪府内を中心とした非行問題の官・民情報掲載リスト「思春期の問題行動に向き合うハンドブック プラス一歩」の作成とリスト作成会議の設置>

リスト作成会議の構成メンバー

正木信二郎氏 (DYS<Delinquent Yurths Supporters>事務局長、元家裁調査官)
 竹下三隆氏 (奈良少年刑務所法務教育専門官)
 竹内和雄氏 (寝屋川市教育委員会 指導主事)
 城村勉氏 (保護司)
 廣井 いずみ 氏 (関西国際大学人間科学部 准教授)
 米谷知世子氏 (非行の子どもの社会的自立をめざしたく陽だまりの会)
 畠山慎二氏 (青少年自立サポート団体「富田ふれ愛義塾」代表)
 多田百合 (親の会代表、NPO 法人関西子ども文化協会事務局)
 柳瀬真佐子 (NPO 法人関西子ども文化協会 代表理事・事務局長)

リスト内容について

- 1)大阪府内を中心とした支援機関・支援団体の調査を行った。
 - ① 調査：支援機関や支援団体などの関連施設の調査を含む所在地調査
 - ② 調査先：居場所と親の会
 - ③ 調査方法：ヒアリング調査及び視察調査
 - ④ 調査期間：平成 22 年 6 月～9 月
- 2)リスト作成委員を中心とした専門的な説明や解説

ページ数：57 ページ 部数：1000 冊

配布先：

大阪府内中学校(公立・私立)562 ヶ所、児童相談所、大阪府警、少年サポートセンター、保健所、弁護士会、教育センター、子ども支援 NPO・支援団体、BBS 等、約 280 か所



■シンポジウム：「ネットトラブルから考える 子どもも大人もネットの上手な利用者になる」

- ・基調講演『テーマ：ネットトラブルの現状と子どもにネットをどう教えるべきか』

講師：豊田充崇氏（和歌山大学教育学部附属教育実践総合センター準教授）

- ・シンポジスト：豊田充崇氏

竹内和雄氏（大阪府寝屋川市教育委員会指導主事、NPO 法人関西こども文化協会理事）

奥村義孝氏（株式会社 NTT ドコモ関西支社 総務部広報室 社会環境担当）

山譯眞梨子(NPO 法人関西こども文化協会スタッフ、不登校の子どもの居場所責任者、

いじめ 24 時間電話相談担当)

- ・コーディネーター：松浦善満

(和歌山大学教育学部学部長、NPO 法人関西こども文化協会代表理事)

- ・日 時：2011 年 3 月 6 日 13:30～16:30

- ・会 場：大阪府教育会館たかつガーデン 2F コスモス（大阪市天王寺区）

- ・参加者数：28 名

- ・主 催：NPO 法人関西こども文化協会

- ・後 援：大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会



[シンポジウムの様子]

※インファノ 36 号(2011 年 5 月 15 日発行)にて
シンポジウム報告を掲載しています。



[シンポジウムちらし]

■親の会

非行の子どもの社会的自立をめざした [陽だまりの会]

- ・参加者：親、サポート団体、教師、非行問題の専門家・研究者

- ・日 時：毎月第一土曜日（原則として）14:00～17:00

- ・会 場：大阪 NPO プラザ（大阪市福島区）

- ・参加者数：60 名(延べ人数)／毎月 1 回開催 12 回

【次年度の計画】

2011 年度は、非行の子どもの社会的自立をめざした「陽だまりの会（親の会）」の活動を中心に、非行問題の背景にある、家庭、学校、社会の在り様について考えていきます。事業名も「親の会（非行プロジェクト）事業」に変更し、少年院出院者の全国サポートネットワーク「セカンドチャンス」との交流を通して、子どもと親の「自律」「自立」について考えていきます。

大阪市こども青少年局から大阪市不登校児童通所事業の委託を受け、今年度より此花区四貫島にあるサテライト此花の運営を開始しました。

サテライト此花には前年度より継続して登録している登録者が 5 名おり、ほととスペース事業であった前年度より事業体制やスタッフが変更になることなどを改めて丁寧に説明し、参加者との関係作りに努めました。

- ・居場所開設日：火・水・木・金 11：00～15：30
- ・開設場所：此花区子ども・子育てプラザ内 音楽室
- ・居場所登録人数：5 名

(内訳：中学 3 年生 2 名、中学 2 年生 1 名、中学 1 年生 1 名、小学 5 年生 1 名)

<子どもに向けて>

前年度と事業体制やスタッフが変更になったことを受けて、まずはスタッフと子どもたちの関係作りを最優先事項として活動を開始しました。事業体制に戸惑いを見せ、来室頻度が減少した参加者もいましたがスタッフからの積極的な関わりによって、前年度とはまた違った人間関係の構築ができるようになりました。また、参加者同士の関係はすでに出来上がっていたかのように見えてきましたが、スタッフとの関係が深まるにつれて個々の課題が見え、参加者が居場所内での他者関係で抱える不安などが見られました。関係構築における不安や課題が明らかになることを、前向きにとらえ、スタッフ間で熟議を重ね、個別対応の上で安心して子ども同士の人間関係が構築できるような居場所運営に努めました。

また季節ごとの行事（遠足や調理実習など）のイベントも実施しました。子どもからの提案を基本とし、イベントの際には当日の活動のみならず事前のポスター作りや買い物等の準備や予算について考えることも活動の一環とし、イベント参加に対する子どもへの動機付けに重点をおきました。

【実施したイベント】

- 4 月～6 月：生キャラメル作り、折り紙教室、書道教室
- 7 月～9 月：パソコンで動画作成の講習会、パン作り
- 10 月～12 月：遠足（五月山動物園）、カキラ、お好み焼き作り、パステルアート
- 1 月～3 月：子ども向けインターネット講演会、バレンタインチョコ作り
遠足（大阪南港野鳥園）、サテライト此花お別れ会

<他機関との連携>

行政機関、医療機関及び登録者の所属学校と連携をはかり、登録者の社会復帰に向けての情報交換や学習・進路支援を行いました。居場所で活動するスタッフには不登校支援に必要な研修を企画・実施し（5 回）、それに加えて NPO として実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（5 回）、人材育成に努めました。

【次年度の計画】

引き続き、大阪市こども青少年局より委託を受けてサテライト此花の運営を実施します。

子ども支援に必要な研修を企画・実施し、それに加えて NPO として実施する各種勉強会へ参加したスタッフを、子どもの居場所を運営する NPO などに派遣しました。多様なスタッフを派遣することにより、「いろんな考え方の人たちがいる。私は私のペースでいいんだ。」という安心感(自己肯定感)が得られたという子どもの声がありました。

スタッフ向けの研修会では、遊びや触れ合いを通してメンタルフレンドとだけでなく、参加者同士の人間関係(コミュニケーション)も深まるような関わり方が学べるよう、多様な研修会やワークショップを企画・実施しました。それに加えて、不登校の子どものサポートに必要な専門性を高めるため、各地で実施された研修会や学習会などに参加する機会を提供しました。

実施月	スタッフ研修内容
4月	個人情報に関する研修
8月	大会主催「子どもの貧困学習」に参加
10月	大会主催「多様な教育性をオランダから学ぶ」に参加
10月	アドベンチャーカウンセリング体験
10月	大会協働主催子育て NPO 活動者研修に参加
12月	大会主催「教えない教育」に参加
1月	大阪市こども相談センター主催「大阪市不登校児童通所事業指導員交流会」に参加
3月	大会主催「ネットトラブルから考える」に参加

【次年度の計画】

さまざまな背景をもった子どもたちに適切に、また柔軟に対応ができるよう継続したスタッフの研修を企画・実施をします。また、スタッフ間の連携が取れる体制づくりに努めます。

子どもの生活環境を考えたとき、学童期以降の子どもたちは、多くの時間を学校で過ごすこととなります。しかし一方で、子どもの生活は学校だけで完結するものではなく、家庭はもちろんのこと学童や地域など多様な場や人との出会い、関わりがあって保障されるものです。さらに、「子どもの権利条約」にあるように、子ども自らが子どもの生活環境を含む社会へ参画していくことも大切です。そこで子どもの生活環境を考える時、子どもの参画をテーマとしながら、学校や家庭、また市民や地域での多様な取り組みを知る機会の創造や、子どもの教育や生活に携わる人々の相互交流などを目的にシンポジウムを実施しました。また、シンポジウム開催に向けて、「オルタナ研究会」と銘打ち、既存の教育・子育てのあり様にとらわれず子どもに関わる実践家を招いての研修会も7回開催しました。※本事業は、実行委員会形式にて実施しました。

■ 「オルタナ研究会 -多様な教育・居場所を考える-

【V01.1 ふりー！すくーりんぐ】

- ・日時：2010年4月15日 14:00～16:00
- ・講師：小野洋氏（運営委員）

【V01.2 北星学園余市高等学校】

- ・日時：2010年8月2日 16:00～18:00
- ・講師：幅口和夫氏（校長）・安河内敏氏（教頭）・今堀浩氏（教諭）

【V01.3 デモクラティックスクールまっくろくろすけ】

- ・日時：2010年8月26日 14:00～16:00
- ・講師：黒田喜美氏（代表）

【V01.4 てんとう虫クラブ（学童保育所）】

- ・日時：2010年9月16日 10:00～12:00
- ・講師：宮川浩氏（指導員）

【V01.5 NPO 法人こども盆栽 -ドイツ・ミニミュンヘン報告会-】

- ・日時：2010年9月29日 19:00～21:00
- ・講師：松浦真氏（代表）

【V01.6 教育がつくる未来の社会 -日本・オランダの実践に学ぶ-】

- ・日時：2010年10月9日 16:15～18:30
- ・講師：リヒテルズ直子氏（教育研究者）×佐々木徹氏（大阪府立柴島高校教諭）

【V01.7 大阪府立西成高等学校 -「反貧困学習」の取り組み-】

- ・日時：2010年11月25日 19:00～21:00
- ・講師：山田勝治氏（校長）



[オルタナ研究会]
北星学園余市高等学校編の様子

■多様な教育・居場所シンポジウム

「教えない教育 - “こどものこえ” をきく-」

- ・日 時：2010年12月12日（日）10：00～16：00
- ・会 場：大阪産業創造館
- ・講演会：「すべての子どもが輝くために～今こそ、子どもの実質的ニーズを知る～」
【登壇者】品川裕香氏
(教育ジャーナリスト/北海道大学大学院 教育学研究科附属子ども発達臨床研究センター)
- ・シンポジウム：【コーディネーター】榎村愛子氏（愛知大学文学部人文社会学科 教授）
【パネリスト】安河内敏氏（北星学園余市高等学校／北海道）
佐々木徹氏（大阪府立柴島高等学校／大阪府）
黒田喜美氏（デモクラティックスクールまっくろくろすけ／兵庫県）
- ・分科会1：「発達障がいと教育」
【講師】品川裕香氏×伊丹昌一氏（大阪府教育センター教育企画部支援教育研究室）
- ・分科会2：「はたらくと教育」
【講師】松浦真氏（NPO法人こども盆栽）×矢野孝氏（矢野紙器株式会社）
- ・分科会3：「アートと教育」
【講師】小島剛氏（音楽家/アーティスト）×島津聖氏（いろもはせす）
- ・子ども向けイベント：「遊ぶ！楽しむ！学ぶ！」
【出展団体・内容】
「まちぞうーダンボールでまちづくりワークショップー」（NPO法人 こども盆栽）
「トレジャーハント 宝石を見つけよう！」（NPO法人 志塾フリースクール）
「ミニ・フリースクールーゆったり過ごせるフリースペースー」
（NPO法人 フリースクールみなも）
「昔遊びを体験しよう！ーけん玉・こまー」（住之江学童保育を守る会）
「科学をつかって楽しくあそぼう」（多文化共生センター ひょうご）
- ・パネル展示：【出展団体】(50音順)
NPO法人えんばわめんと堺、NPO法人関西こども文化協会、CORE+、
神戸サドベリースクール、国立明石工業高等専門学校、子どもの遊びの保障とコミュニティプレイコミちる、NPO法人こども盆栽、NPO法人SEAN、
NPO法人志塾フリースクール、ジャングルようちえん、住之江学童保育を守る会、つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]、デモクラティックスクール、NPO法人ピープルアクティブライフ、ふおーらいふ、NPO法人フリースクールみなも、志塾フリースクールラヴニール、北星学園余市高等学校、NPO法人箕面こどもの森学園、矢野紙器株式会社、有限会社隅田農園コミュニティ事業部
- ・全体会：【ファシリテーター】北野真由美氏（NPO法人えんばわめんと堺/ES）
- ・参加者数：85名
- ・主催：オルタナ会議実行委員会（NPO法人えんばわめんと堺、NPO法人関西こども文化協会、CORE+、NPO法人こども盆栽、NPO法人志塾フリースクール、NPO法人フリースクールみなも、志塾フリースクールラヴニール、大学生、大学院生）
- ・後援：大阪市・大阪市教育委員会・大阪府教育委員会・堺市教育委員会
- ・助成金：大阪府福祉基金地域福祉振興助成金・日本財団

【次年度の計画】

オルタナ研究会を2010年度に引き続き実施します。研究会で事業実施を進めていくこともあり、参加している各団体からも事業費を出し合い実施する予定です。

2

次世代育成 支援部門

誰もが安心して、自信を持って子育てができる環境をつくるために

地域の中で大人も子どもも共に育ち合う環境づくりをめざし、新たなコミュニティとして子育て支援拠点施設の運営や一時保育を通じた子育てサポートなどを行いました。また、昨年引き続きライフプランニング事業にも取り組み、中高生に向けたプログラム開発を行いました。

2-1 つどいの広場「ゆう」運営事業

2008年度～
受託事業

寝屋川市から委託を受け、寝屋川市立三井小学校の余裕教室を利用したつどいの広場「ゆう」の運営も無事3年目を終えることができました。おおむね三歳未満の子どもとその保護者を対象に、開設時間中にはいつでも利用でき、広場スタッフが2名以上常駐しています。同じ年齢くらいの子どもたちが一緒に遊んだり、親同士の交流を深めたり、子育てや地域の情報などを提供しています。ランチタイムには、スタッフも一緒に昼食をとりながら交流を深めています。定例プログラムとして、「食のおしゃべり広場」（栄養士のスタッフによる食に関する個別相談）、「子育てセミナー」（保育士、助産師、保健師、歯科衛生士などをゲストに招き、日常の子育ての心配ごとの相談、ベビーマッサージの講習や歯磨き指導等）、「親子ふれあい広場」（親子ヨガ、ベビーダンス、親子でストレッチ等）、季節の手作り講習会（こいのぼりやクリスマスリース等）や遊休品の交換会などを実施しました。また、毎月のお誕生日会では、スタッフ手作りのカードと当日の写真や手形などをプレゼントし、大変喜ばれています。最近では、お父さんと子どもの組み合わせで遊びに来てくれることも少しずつ増えてきました。お父さん同士が子育ての喜びや悩み等を気軽に話し合えるようにすることが、大きなテーマです。他にも、広場以外でも子育てサークルへの支援や地域の公園での「絵本の日出前」、香里園駅前のふらっとねやがわでの「広場出前」も実施し、子育て力を高める活動に広く取り組んでいます。

「ゆう」に遊びに来ることで少しずつ親同士の交流が広がれば、同じ地域の中で支えあっていける関係ができ、その上で地域の人たちが子育て家庭を応援する、そんな子どもも親も安心して育つ環境づくりにつなげていきたいと願っています。

- ・開設時間：火・水・木・金・土の10:00～16:00
- ・会場：寝屋川市立三井小学校普通教室棟1階
- ・参加者数：6,136名（延べ人数）
内訳：おとな2,882名、子ども3,254名



【次年度の計画】

地域の子育て支援拠点として、地域の方や中学校・高校・大学生と連携し、職業体験の受け入れや、日常的なボランティア受け入れを行います。またさらに父親の参画がしやすいよう、毎月の父親向けのプログラムを取り入れ、ブログや広場ニュースなどを活用しながら地域への広報を推進していきます。合わせて、小学校児童との交流活動もすすめていきます。またイオンモール株式会社との協働でひろばの出前も進めていきます。

NPO・企業とのコラボレーションによる事業「共育（ともいく）」とは、世代間を越え、地域の中で大人も子どもも共に育ちあう関係づくりをめざし、JR学研都市線「松井山手駅」前で、ファミリーリソースセンター「つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]」を運営しています。「つくるところ」では、オリジナルプログラムを考え、子どもと親・地域との関係づくりをサポートしていきます。コンセプトを実現するプログラムとして、「つくる」プログラムを積極的に導入、様々な「つくる」プログラムを通して、子どもたちの「自主性」や「創造力」、「協調性」や「コミュニケーション能力」を育むことを大切にしています。

<プログラム>

▽子育て中の親をサポートする子育て応援プログラム

生後3か月から小学校4年生までを対象に、一時保育や講座保育、月極め保育などの保育事業や、放課後クラブといった学童保育にも取り組んでいます。仕事だけでなく、リフレッシュや通院など、幅広い目的で利用いただいています。また、週2回親子でゆっくり過ごすことのできるおやかフェや、月1回で育児用品の交換ができる「いちごバザール」・身長・体重測定デー・ママのリフレッシュの為のアロマ de ハンドマッサージなども開催しています。

【保育】

- ・ 保育登録者：331名
- ・ 月極め保育登録者：13名
- ・ 保育年間利用者数：3,498名（延べ人数）

（2010年度末現在）



【カフェ】

- ・ おやかカフェ年間利用者数：1435名（延べ人数）
- ・ こどもカフェ年間利用者数：67名（延べ人数）

（2010年度末現在）



放課後クラブメニュー：放課後クラブ(国語のたね)、
おえかきひろば、たけちゃんのほんであそぼ



▽子どもや親、地域の人たちの関係づくりをテーマにしたスクールプログラム

地域の方々や「つくるところ」のスタッフが企画した講座、また、外部のパートナー企業や NPO が実施する講座など、バラエティ豊かな講座を展開します。親子で一緒に楽しめる講座や集まってきた地域の友達と一緒に活動することで創造力を広げ、コミュニケーションの力を育みます。幼児から小学校中学年までの子どもを対象にした「食育」「アート」など、創造的なプログラムを多彩に提供しています。

おとな講座：初めてのタイ式ヨガ、KAQILA、ゴスペルスクール、
ともいくサロン～はなすところ・そだつところ～、
各国料理教室

おやこ講座：プレ・キッズキッチン

こども講座：キッズキッチン、宿泊体験、こどものまち“ミニ京都”
“つくところシティ”

つくる講座：パステルアート、伝える絵本、アロマクラフト



- ・つくるところ会員数：140組 215名
 - ・ボランティア登録数：約 56名（延べ人数）
 - ・連携団体：NPO 法人プラス・アーツ、京阪カインド（株）、京阪電気鉄道（株）、（株）DAI
- （2010年度末現在）

【次年度の計画】

保育事業では保育内容の充実の為、料金の改定を行いました。より一層充実した保育を努めます。2011年度からは連携団体の NPO 法人プラス・アーツが運営から脱退し、全ての運営を当団体が行うことになりました。新たに放課後クラブやキッズキッチンの講座の運営も当団体で行うことになりました。

また、前年度に引き続き、父親を対象にしたプログラムの開催として「ともいくサロン」の内容のパワーアップや独身の男性やシニア世代にも参加してもらえる男性の料理教室の開催を予定しています。また新プログラム「つくところ探偵団」では地域の疑問を募集したこども探偵と一緒に解決していきます。地域に密着したこのプログラムでは、地域の人々との交流を深めることにも繋がります。また、ボランティアの参画では「こどものまち」を学生ボランティアが主体となり企画・運営を行っていて、今年度は第三回目の開催を目指しています。昨年度から行っている「つくる講座」では登録者も増加しています。地域の方々がスキルを活かして講座を開催することによって「共育」のまちづくりを実現させます。

保育グループ“カシオペア”では、保育を通じた子育てへのサポートをめざし、「こどももおとなも、ありのままでゆっくりと」をモットーに活動を行っています。

2010年度の行政・企業・団体などからの保育依頼は、17件でした。過去2年の一時保育依頼件数（2008年度43件、2009年度46件）と比較すると、大幅に減少しました。その要因として、企業からの保育依頼がなくなったり減少したことから、不況の影響を受け経営圧縮の結果、一時保育を取りやめたことなどが考えられます。一方で、公的機関からの一時保育依頼は例年通りでした。さらに、新規一時保育依頼先が2件あり、これらはすでに一時保育を利用していただいていた団体からの紹介によって利用につながっています。

また、市民に向けては保育ボランティアの受入れを行っています。2010年度は、ボランティア参加ができるほど、回数・規模共に大きくはなかったことから、ほとんどボランティアに活動してもらう機会がありませんでした。しかし、ドーンセンターでの一時保育も含め、ボランティアの活動機会を確保していくことも踏まえ、今後もホームページやインファerno、チラシ等を通じて随時募集を行ってまいります。

- ・対象：子育てサークル活動時、子育て支援講座や学習会、セミナー、コンサート、イベント時に一時保育を希望する主催者
- ・日時：申し込みに合わせ随時

保育グループ「カシオペア」が大切にしていること

**こども おとなも
ありのままでゆっくりと**

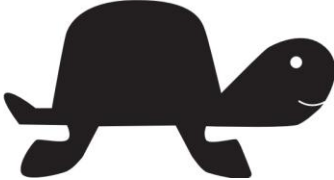
その子がその場所で
ゆっくりとお母さん・お父さんを持って帰るように。
子どもたちは不安や寂しさを
忘れることもあります。
そんな時でも、楽しめる時間を提供できれば。
色々な年齢の子どもたちと少しでも触れ合えたら。
そんな思いで保育をしています。

★ **お問い合わせ** ★

NPO法人 関西子ども文化協会
〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20
大塚 NPO プラザ 207号
電話：06-6460-1621
FAX：06-6460-1628
E-mail：office@kansaikodomo.com
HP：http://www.kansaikodomo.com

**一時保育
のご案内**

保育グループ カシオペア



【一時保育案内パンフレット】

【次年度の計画】

保育者の日程調整・保育に向けた事前準備・保育当日・事後報告の流れをよりスムーズにし、保育者にとってより安心して保育当日を迎えやすい体制を整えます。また保育の実情に合わせた保育者研修を実施します。

2010年度は、2009年度に引き続き、毎週木曜日の午前の一時保育を、昨年度と同額の予算で、ドーン利用促進事業協同体との協働で実施しました。

2010年度の総申込者数は117名、総利用者数は110名でした。利用実績は、昨年度とほぼ同じで、横ばいとなりました。

2009年度は、受付業務をする中でドーンセンターでの一時保育についてあまり問い合わせがなかったのですが、2010年度は、2008年度以前から利用していただいた方の第2子などで一時保育利用の問い合わせがあるなど、久しぶりの利用者からの問い合わせもありました。さらに、2010年度は、団体利用の問い合わせが多くありました。

保育事業実施体制については、事務局スタッフと、保育者のシフト・謝金支払い・おやつ の発注などの業務を担当するスタッフが、日常的に連絡を取り合いながら、子どもの年齢・人数・初めての保育かどうかなどを考慮して、きめ細かい保育体制を取るよう配慮し、安心・安全の保育をおこなってきました。

また、安心・安全の保育環境を作るため、保育者どうしのコミュニケーション及び、事務局と保育者とのコミュニケーションを重視し、一時保育事業についての説明会や「こどものへや」の大掃除時に、保育者の意見交換会をしました。研修は、子育て支援者向け研修「育ちの環境力」(p24参照)にも参加しました。

<2010年度受託事業内容>

- ・ 保育申し込み受付業務・保育者配置業務（当会事務局にて）

月曜日～金曜日 13:00～17:00

メール・電話・FAX・郵送

- ・ 一時保育受付業務と保育

（ドーンセンター3階こどものへやにて）

毎週木曜日 9:30～12:30

（2009年1月2月3月のみ13:15～16:30も）



[案内ちらしをリニューアル]

【次年度の計画】

ドーンセンターの指定管理者が2010年度から「ドーン運営共同体」に変わり、新体制のドーンセンターと共に一時保育に取り組むこととなります。それにともない、一時保育事業の延長線上で企画提案をするなど、ドーンセンターでの一時保育は、ドーン運営協同体とタッグを組んで実施することとなります。2011年度は、2010年度と同様、毎週木曜日の午前に一時保育を実施します。

2-5 「女子中高生のためのライフプランニング 学習プログラム開発事業」

2009年度～
自主事業

昨年度に引き続き、文部科学省「女性のライフプランニング支援総合推進事業」の委託を受け「女子中高生のためのライフプランニング学習プログラム開発事業」を実施しました。昨年度の「ライフプランニング手帳の作成と活用」の事業実施から得られた成果から、女性が主体的にライフイベントを迎えていくためには、教育機関に所属している時期からプランニングを意識し、学ぶ環境を用意しておく必要があると考え、楽しみながらライフプランに出会うきっかけとして「ワークライフバランスゲーム」を開発しました。開発に向けて、中・高校生の子どもたちへアンケートを実施したところ、将来の仕事に対するイメージが「苦しい」「人間関係が大変そう」「就職先を探すのが難しそう」など不安要素が非常に高いことが分かり、楽しみながら「仕事」のもつイメージの変化や将来のライフイベントについての情報をゲーム内で触れ、活用することが学べるようプログラム化しました。今後の課題として、ゲーム実施だけでなく、中高生に対して、社会で実際に働く大人といかに多く出会いを作り、リアリティを持って「働くこと」や「ライフプラン」を考える機会の創出があげられることから、継続した事業の展開を考えていきたいと思っております。

■ 「ワークライフバランスゲーム」実施日程

【第1回】日時：2010年12月22日／場所：大阪NPOプラザ会議室F

【第2回】日時：2011年3月4日／場所：堺市南海線梅・三木多駅前スマイルセンターロビー

【第3回】日時：2011年3月8日／場所：大阪府立東住吉高校

【第4回】日時：2011年3月9日／場所：河内長野市立美加の台中学校



[ヒアリング・ワークの様子]
@堺市赤坂台中学校



[ワークライフバランスゲーム ルールブック]

■「わたしデザイナー」活用ワークショップ実施日程

※昨年度に引き続き「ライフプランニング手帳の作成と活用事業」のワークを実施しました。

【働く女性のためのモチベーションアップに ライフプランニング講座】

- ・日時：2010年5月19日(水) 18:30～21:30
- ・場所：ブリーゼタワー13F

【あなたらしくもっと輝くための ライフ・プランニング わたしデザイナー】

- ・日時：2010年7月24日(土) 10:00～12:00
- ・場所：クレオ大阪東

【女性のためのワークプランニング講座】

- ・日時：2010年9月14日(火) 13:00～16:00
- ・場所：千里公民館第4講座室

【働く女性のためのライフプランニング講座】

- ・日時：2010年11月18日(木) 10:00～12:00
- ・場所：豊中市労働会館研修室

【キャリアアップ応援講座

～働くあなたにモチベーションアップ!わたしだけのライフ・プランニング～】

- ・日時：2010年11月27日(土) 13:00～16:00
- ・場所：茨木市立男女共生センターローズ WAM 5階研修室

【ライフプランニング講座】

- ・日時：2011年2月1日(火) 10:00～12:00、3日(木) 10:00～13:00
- ・場所：とよなか国際交流センター研修室

※ライフプランニング講座 PR のための映像を作成。

関西こども文化協会ホームページの「子育て家族の応援情報」にアクセスしご確認ください。

また、You Tube にもアップされています!「ライフプランニング講座【関西こども文化協会】」で検索



[ライフプランニング講座の様子]

【次年度の計画】

女子中高生のためのライフプランニング事業の中で作成した、ワークライフバランスゲームを、2011年度はブラッシュアップしていきたいと考えています。より活用しやすいゲームを作成することで、学校等で利用しやすくなると考えています。

3

企画・情報 提供部門

子どもの権利条約に適う教育や子育てに関する情報を 伝え、意識を高め、市民の取り組みを促進するために

今、社会で課題となっていることをテーマに情報誌「インファerno」を定期発行。また、ホームページ、パンフレットのリニューアルにも取り組みました。親や子どもの声に耳を傾け、子育てを取り巻く環境の変化と共に、団体の活動を分かりやすく伝えることで会員や支援者の拡大に努めました。

3-1 情報誌「インファerno」

1999年度～
自主事業

子どもの今をみつめ、未来を育てる情報誌として、「インファerno」を定期発行しています。子どもや若者の声に耳を傾けることを念頭におき、現代の子どもを取り巻く非行、家族・社会関係、生存権や学習権、参加権の保障など様々な問題に対して、専門家・研究者による論説、NPOや行政・企業などの取り組みの現状と課題を社会に発信していきます。

33号から、デザインとコーナーのリニューアルを行いました。年間を通して、時節に応じたテーマを設定し、課題に直面する若者や課題に取り組む子ども自身の声と、支援する大人の様子を伝えることに力を入れました。

32号	特集	講座報告	子育て支援情報
	テーマ:市民が考える子ども政策 ・子育てひろば全国連絡協議会(奥山千鶴子氏) ・ファザーリング・ジャパン(安藤哲也氏) ・関西子ども文化協会(松浦善満) ・現場発の生きた提案を政策に(小崎恭弘)	女性のための就活実践塾「“これからの私”のために ライフプランニング講座」	学校の余裕教室を活用したつどいの広場実践についての調査と実践マニュアル作成
	子どもの社会参加	「つくるところ」がつくるもの	
	高校生による、エイズ・ピア・エデュケーション「るるくめいと」③	つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]の現場情報	
33号	特集	ニュース	育つ・見守る・支える
	テーマ:「閉じこもる」子の心をひらく親子関係 ・ケース「31歳男性の例」 ・ケース「28歳女性の例」 ・「閉じこもり」の背景にある子育て問題(前川哲治氏)	NHK ハートフォーラム「自閉症・発達障害のある子どもの不登校への対応」	学童保育所:大切にしたい3つの間(学童保育専門性研究会)
	子どもの社会参加	いちごとゆるのダイアリー	
	未成年模擬選挙①(模擬選挙推進ネットワーク)	つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]のエッセー	

34号	特集	講座報告	育つ・見守る・支える
	テーマ:児童虐待を止める! ・社会全体で虐待を未然に防ぐ (西郷泰之氏) ・親としての育ちを支える支援 (酒井佐枝子氏) ・事例「ホームスタート」 ・レポート「緊急フォーラム・父親たちで考える、 児童虐待・ネグレクトを止めるためにできること」	第2回オルタナ研究会「北星学園余市高等学校」編	NPO 法人フリースクールみなも
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	未成年模擬選挙② (模擬選挙推進ネットワーク)	つどいの広場「ゆう」のエッセー	
35号	特集	講座報告	育つ・見守る・支える
	テーマ:育ちの環境力 ・育ちの環境力ー子どもの育ちを支えるネットワーク(野尻紀恵氏) ・企業の事例「つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]」 ・NPOの事例「水月児童文化センター」 ・中学校区事例「堺市赤坂台中学校区」 ・公民館活動事例「貝塚子育てネットワーク」	多様な教育・居場所シンポジウム「教えない教育ー“こどものこえ”をきく」	青少年自立サポート団体「富田ふれ愛義塾」
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	未成年模擬選挙③ (模擬選挙推進ネットワーク)	つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]のエッセー	

【次年度の計画】

時節に合わせたテーマで、市民目線の伝達と社会への問いかけをしていきます。特に、課題に直面する子どもや若者の現実と、その一方で主体的に課題解決に取り組む子どもや若者の姿を捉え、それを支える市民活動や公的な資源のあり方を伝えます。次号の特集は、ケータイの問題を取り上げます。今後は震災関連なども検討したいです。

ホームページ・パンフレット作成の技術協力については、2009年から引き続き、株式会社ロックオンの協力により、構成・見せ方・イメージに至るまで詳細な打合せを実施し、ホームページの更新を行っています。2010年度に更新した点は、次の通りです。

- ・トップページのデザイン更新
- ・「NPO団体イベント情報」（ページ作成及びバナーの作成）
- ・「子どもと家族の情報サイト」を「子育て家族の応援情報」と名称を変えて、内容を更新

ホームページでは、ボランティア募集を行ったり、イベント情報を掲載したりするなどして、情報発信を行っています。2010年度の新たな取組としては、「NPO団体イベント情報」ページの作成でした。当会が、中間支援団体としての役割を担っているため、子どもに関するNPO団体からイベント情報広報の依頼や相談も多くあります。そのため、ホームページ上で、当会情報以外の団体情報も掲載できるようにと、新規ページを作成しました。



【連携団体】

株式会社ロックオン

【次年度の計画】

ホームページができるだけ頻繁に更新できるよう、ホームページ更新情報の整理や市民に伝えるべき情報の収集を積極的に行います。さらに、新規事業や社会的に発信すべき事柄など、タイミングを逃さず更新できる体制を整えます。さらに、パンフレットの内容の見直しも行います。

4

教育・子育て 調査部門

教育や子育ての事例やデータを蓄積・研究し、取り組みに生かすために

各地で開催される研修会やセミナーに参加しました。また、子ども支援に関係する団体を訪問し施設や支援現場の見学も行いました。

4-1 各種学習会、研修会への参加

1999年度～
自主事業

各事業の取り組みにいかすため、各地で開催される学習会や研修会、及びシンポジウム等に参加しました。

参加プログラム	場所	参加日
奈良・非行と向き合う親たちの会 設立シンポジウム	奈良	2010年5月2日
関西学院子どもセンター オープニング	兵庫	2010年5月8日
大阪商工信用金庫社会福祉賞表彰式	大阪	2010年5月12日
大阪府人権擁護士養成講座	大阪	2010年6月～3月
キャリアリンクセミナー	大阪	2010年7月17日
NPO 法人ホームスタート講演会 西成子どもの里	大阪	2010年7月29日
EDU★COLLE～多様な教育の博覧会～ 出展	大阪	2010年8月1日
近畿労金 NPO パートナーシップ制度	大阪	2010年8月5日
大阪府立西淀川高校 地域連携菜の花プロジェクト	大阪	2010年8月19日
女性のエンパワメントと男女共同参画づくりフォーラム	埼玉	2010年8月27日
登校拒否・不登校問題全国のつどい	埼玉	2010年8月28日～29日
ファザーリングジャパン関西 虐待緊急フォーラム	大阪	2010年9月10日
チャイルドリソースセンター研修会「保護者との関わり方を学ぶ」	大阪	2010年9月27日
「こども・子育て新システム」緊急学習会	京都	2010年9月29日
「教育がつくる未来の社会 ー日本・オランダの実践に学ぶ」	大阪	2010年10月9日
子どもとメディアのこれからに向けて	広島	2010年11月20日～21日
大阪市サテライト事業 メンタルフレンド交流会	大阪	2011年1月22日
セカンドチャンスNPO 設立シンポジウム 「少年院からの社会復帰と当事者支援の可能性」	東京	2011年1月15日～16日
ユースビジョン NPO キャリアフェア	京都	2011年1月29日
チャイルドリソースセンター カナダ親子支援プログラム報告会	大阪	2011年2月5日
ファンドレイジングセミナーin 大阪 「世界のファンドレイジングの潮流と明日への期待」	大阪	2011年2月7日
全国合同教育講演会進路相談会	大阪	2011年2月13日
主に関西の中間支援・NPOによる 東北地震・津波被災地支援に関する情報交換集会	大阪	2011年3月14日
新しい公共支援フォーラム	大阪	2011年3月23日

5

市民活動コー
ディネート・ネッ
トワーク部門

他のNPOとの連携や、NPOと企業・行政の協働のコーディネートで、市民活動の活動の場を広げ基盤を強化するために

子育て支援者を対象に、子ども・家庭・地域を含めた「育ちの環境」への支援について学ぶワークショップを実施。研修後も学びを現場で活かせるよう「子育て支援者研修ノート」も作成しました。また、北星余市高校の生徒募集協力、虐待予防やリアル熟議のシンポジウム共催など運営協力も行いました。

5-1 「育ちの環境力～子育て支援のもつ多様性を認識する～」

ダイバシティ

2010年度
受託事業

財団法人こども未来財団から子育て支援者向け研修事業＜大規模研修会＞を受託、子育てNPO支援者として多様化するニーズに合わせ、より専門性の高いスキル獲得に向けて、「子育て支援者研修ノート」を使い、ワークショップを交えた研修を行いました。シンポジストからは、それぞれの実践報告や行政の取組を発表してもらい、「子どもの成長」に向けてより豊かな支援とは何かについて考える機会としました。

アンケートからは、参加の目的を「スキルアップのため」「支援者同士の情報交流」と挙げる意見が多く、ワークショップ形式での研修は、主体的学びや現場で活かせるスキルとして意識化することができ効果的でした。また他にも、「地域貢献」や「社会貢献」などの意見も目立ち、子育て支援にとって地域との関わりが重要であることを支援者自身も意識していること、また民間企業からの参加もあり、子育て支援と地域との関係性に対する注目の高さが伺えました。

シンポジウム：「子育てNPO支援者に必要な‘ちから’とは」

【シンポジスト】

- ・遠矢 家永子氏（NPO法人SEAN 副理事長・教育部門「G-Free」代表）
- ・大島 美佐子氏（関西学院子どもセンター地域の子ども・子育て支援事業さぼさぼ職員）
- ・野尻 紀恵氏

（茨木市教育委員会スクールソーシャルワーカー/神戸常盤短期大学部幼児教育学専任講師）

- ・荒井大作氏（大阪府福祉部こども室子育て支援課課長）

※広島開催時：小川仁志氏（広島市こども未来企画課長）

【コーディネーター】：小崎 恭弘氏（神戸常盤大学短期大学部幼児教育学准教授）

「子育て NPO 研修ノート活用ワークショップ」

- “考えて” “動ける” 主体的スタッフ研修-

- ① 『きづくちから：子どものエンパワメント術 ～育ちのなかの人権を保障するために～』
講師：遠矢 家永子氏
- ② 『かかわるちから：親を尊重するコミュニケーションスキル～接遇技術を身につける～』
講師：大島 美佐子氏
- ③ 『つなぐちから：子育て支援と地域社会連携～ソーシャルワークの必要性～』
講師：野尻 紀恵氏

- ・ 日 時：2010年10月30日 10:30～16:30
- ・ 会 場：大阪梅田ビジネスセンター（大阪市福島区）
- ・ 参加者数：100名

- ・ 主 催：財団法人こども未来財団・NPO 法人関西こども文化協会
- ・ 後 援：文部科学省・(社福) 全国社会福祉協議会・大阪府・大阪市
(社福) 大阪府社会福祉協議会 (社福) 大阪市社会福祉協議会
大阪府教育委員会・大阪市教育委員会

※同プログラムは、広島開催として、2011年12月18日に広島市でも開催しました。



[大阪開催の様子]



[案内ちらし]

【次年度の計画】

(財) こども未来財団から子育て支援者向け研修事業<大規模研修会>を申請。学童期の放課後をテーマに関係機関・団体等の活動者を対象にワークショップ形式の研修会を実施します。活動者が感じている子どもや現場の実態をすくい上げ、未来への展望などを考える機会とします。

「虐待の予防」をテーマに、虐待が起こる原因の一つとして親の孤立やストレスに注目し、問題が起きる前の早い時期での予防の重要性と、予防の有効な方法として親支援や地域支援の重要性を訴えるシンポジウムを、以下の内容で東京のNPO法人ホームスタート・ジャパンと共催で取り組みました。一つの具体的な対策として、ホームスタート活動を紹介し、地域の親がボランティア活動で孤立する親を支えるという、ピアサポートによる新しい家庭訪問型支援の仕組みと特徴を理解してもらいました。

- ① 参加者に、親支援ならびに地域支援の連携、社会のつながりが、結果として虐待を未然に防ぐ効果をもたらすことを再認識してもらう。
- ② 地域で虐待防止ネットワークを構築するための有効な手法としてとらえ、構築への足掛かりとする。
- ③ 家庭訪問型支援（ホームスタート）の有用性を理解してもらい、関西地域での普及の足掛かりとする。
- ④ 児童虐待の問題は、多くの場合、親も子も自ら支援の必要性を訴えることが少ない。虐待予防の観点から、対象となる親子をエンパワメントする形の支援を行う。

・日 時：2010年11月6日（土）13:00～17:00

・会 場：ドーンセンター 特別会議室

・講演者：「親としての育ちを支える支援－人とのつながりの中で生きる私たちにできること－」
酒井佐枝子氏（大阪大学大学院 連合小児発達学研究所）
「ホームスタート：新しい家庭訪問型支援とは」
西郷泰之氏（大正大学人間学部教授、NPO法人ホームスタート・ジャパン代表）

・参加者数：90名

・共 催：NPO法人ホームスタート・ジャパン
NPO法人ストレスカウンセリング・センター
NPO法人関西こども文化協会

・後 援：大阪府、大阪市、堺市、社会福祉法人
大阪府社会福祉協議会、社会福祉法人
大阪市社会福祉協議会、社会福祉法人
堺市社会福祉協議会、
NPO法人児童虐待防止協会

・助 成：NHK 歳末助け合い義援金配分金事業



[主催者挨拶の様子]

【次年度の計画】

産後女性の10～15%が産後うつ病にかかるといわれています。にもかかわらず、一般的にあまり知られていません。産後うつに対する理解不足、密室育児（母子が二人きりの状態）などが、虐待や無理心中を引き起こす可能性があります。講演会「産後うつを考える」を開催し、継続的な家庭支援体制づくりに、つどいの広場「ゆう」とファザーリングジャパン関西と協働で取り組みます。

文部科学省が推進する「リアル熟議」を「子どもとケータイ」をテーマに共催という形で実施しました。「熟議」とは、多くの当事者による熟慮と討議を重ねながら、政策形成・課題解決していくことです。相互に学び合いながら、解決策を洗練させるとともに、解決に向けてそれぞれが主体的に行動することをも目指すものです。

今回のテーマでは、高校生のケータイ所持率が大阪では95%を超えている現実から、もはや「子どもにケータイは不要」と禁止するだけでなく、様々な参加者との交流を通して、よりよい方向性を模索できる「場」になることを目指して取り組みました。

また、新学習指導要領では「情報モラル」を扱うことが必須となり、学校現場でこの問題はますますクローズアップされることもあり、教員も多く参加していました。

- ・日 時：2011年2月12日（土）13:00～17:00
- ・会 場：大阪府教育会館たかつガーデン 8階たかつ東中

・【コーディネーター】

竹内 和雄氏（寝屋川市教委教育指導課指導主事、元寝屋川一中教諭）

・【ゲスト】

金山 健一氏（函館大学、函館教師サポート研究会）

久保田 賢一氏（関西大学総合情報学部教授）

富田 幸子氏（寝屋川市立第二中学校教諭）

峯本 耕治氏（弁護士、
日本弁護士会・子どもの権利委員会副委員長）

森 達也氏（株式会社教育同人社 代表取締役社長）

- ・参加者数：100名

- ・主 催：リアル熟議 in 大阪 実行委員会
株式会社 教育同人社

- ・共 催：NPO 法人関西こども文化協会

- ・後 援：文部科学省、大阪府教育委員会、
大阪市教育委員会、寝屋川市教育委員会



[案内ちらし]

※「子どもとケータイ」については、インファerno 36号(2011年5月15日発行)でも特集テーマとして取りあげました。

【次年度の計画】

公益社団法人日本青年会議所をはじめとした市民団体に、文部科学省の「リアル熟議」の取り組みのアドバイスなどを行っていきます。

全国の保護者がいままで行ってきた教育相談会と生徒募集の活動について、主に関西地区で以下の事業に取り組みました。

1 北星余市生徒募集に直接結びつける活動

関西地区の参加者および結果としての受験生が減少していることの分析。関西地区で不登校やひきこもり（含 軽度発達障害ADHA アスペルガー等）、非行の問題に取り組み、北星余市の教育を理解するオピニオンリーダーの発掘と、つながりを持つための活動。

2 北星余市の教育理念「子どもたちは、集団の中でこそ成長する、更に、社会の中で生きていく力は集団の中で育つ」という人間観と教育観を社会に発信する活動。

100人規模のシンポジウムの企画から実施。

【次年度の計画】

「北星余市高等学校全国生徒募集協力事業」として引き続き、昨年度つながった北星余市の教育を理解する個人や団体との関係を軸に、再度訪問し、教育理念の社会発信についてヒヤリングを行います。また、関連するテーマでのシンポジウムを開催する予定です。

6 相 談 部 門

子どもや保護者、支援者の声を聴き、相談に対応して 一人ひとりを支えるために

子育てや子どもに関する相談をしたい人、及び「子ども」に関わる活動をしている団体や人の相談にのり情報提供や
応援・サポート（中間支援）をおこないました。

6-1 24 時間いじめ電話相談事業	2006 年度～ 受託事業
---------------------------	------------------

大阪市子ども相談センターとの協働で、子どもや保護者等からの主にいじめに関する相談を 24 時間体制で実施しました。電話相談では 1. 相談者の気持ちを受け止める、2. 状況を整理する、3. 相談者及び本人（子ども）に状況に合った具体的な解決策やリファー先を提示し相談者と一緒に解決に向けて考える、ことを重点的に、相談を受け付けました。また適切で柔軟な対応が常にできるよう、電話相談員にはケース検討を中心にした研修を企画・実施し（12 回）、それに加えて NPO として実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（4 回）人材育成に努めました。

また 1 月に深刻な虐待が疑われるケースを受けて、大阪市子ども相談センターと大阪市の虐待対応について共有し（1 月）、緊急の連絡体制や今後について話し合う機会を持ちました。

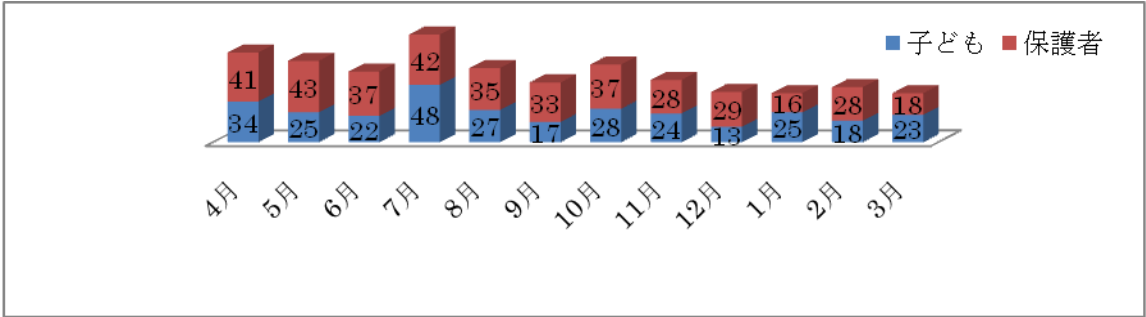
《電話相談実施日時》

- ・日 時：月曜日から金曜日 19：00～翌朝 9：00
土・日・祝・年末年始 24 時間

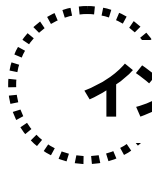
《電話相談員定例研修実施日時》

- ・日 時：毎月第 4 木曜日 19：00～21：00

24 時間いじめ電話相談 受付件推移（2010 年 4 月～2011 年 3 月まで）



【次年度の計画】
2011 年度より大阪市子ども青少年局より、「電話教育相談」という形で改めて委託を受けました。「いじめ」から「教育相談」となり、相談内容も多岐に渡ると考えられますので、電話相談員には定例研修以外にも多様なニーズに対応できる研修を実施していきます。



インターン等の受け入れ

大阪経済大学 3回生 5名

企業実習、ビジネス・インターンシップの授業の一環として受け入れました。

・8月2日から8月30日（実質実習日数 20日間）

	実習内容		実習内容
1日目	オリエンテーション	11日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り準備実習
2日目	「不登校の居場所」実習	12日目	「つくるところ」実習
3日目	「不登校の居場所」実習	13日目	事務局実習
4日目	「つくるところ」お泊まり会準備実習	14日目	「つくるところ」「不登校の居場所」実習
5日目	「つくるところ」お泊まり会実習	15日目	「つどいの広場ゆう」実習
6日目	「つくるところ」お泊まり会実習	16日目	「つどいの広場ゆう」実習
7日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り準備実習	17日目	「つくるところ」、事務局実習
8日目	事務局実習	18日目	インターンシップ振り返り
9日目	事務局、イエローレシートキャンペーン	19日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り実習
10日目	事務局、イエローレシートキャンペーン	20日目	「つくるところ」地域の夏祭り実習

コネクションズおおさか（大阪市）職業訓練 10名

コネクションズおおさかについては、大阪市若者サポートステーションの取組で、関西こども文化協会が職業体験の体験先として登録をしていることから、2010年度は、職業訓練生を合計10名受け入れました。職業訓練生の多くは、ひきこもり経験者や、なかなか就職できない若者のため、コネクションズおおさかの担当者から訓練生の状況を聞き取りをした上で、受け入れをしています。毎月1名程度の受け入れをし、1名あたり1日の受け入れが基本で、8月には、1人の訓練生を10日間受け入れすることもありました。職業訓練時の業務内容は、事務局での事務作業が中心で、一時保育事業等の資料整理などを手伝ってもらいました。

その他個人での受け入れ 学生 2名

インターンシップ生として受け入れを4～7月の間で2名行いました。

実習内容は、事務局業務の実施及び、つどいの広場ゆうやつくるところなどの現場での実習を行いました。個人での受け入れの場合、特にそれぞれがどんなことをやりたいのか、関西こども文化協会でのインターンシップに何を期待しているのかを最初のオリエンテーションで丁寧に聞き取りました。その聞き取りを経て、人によって現場実習はせずに、事務局業務の実習のみの場合もありました。